



2023.2.24
第180号

発行

福島県市町村
教育委員会
北会津支部
北会津支部

編集

福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力

小・中学校長会

老いて学べば



会津教育事務所域内三支会連絡会
会長 林 健幸

以前、高校の先輩のご挨拶の中で、学びに終わりはなく生涯現役を目指してという一文に接し、その中で紹介されていた幕末の儒学者で「言志四録」の著者・佐藤一斉の「少にして学べば、則ち壮にして為すこと有り。壮にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、則ち死して朽ちず」の言葉に感ずるものがありました。一斉は当時の儒学の権威者で、幕末の指導者の多くは彼の著書に親しんだと言われています。他にも「憤の一字は、これ進学の機関なり」発憤することが学びを進める

こととして、その「憤」についての説明として「面は冷ならんことを欲し、背は暖ならんことを欲し、胸は虚ならんことを欲し、腹は実ならんことを欲す」としています。私が一斉の言葉に接したのはある程度年齢を重ねてのことですが、先に述べた幕末の指導者たちは、二十代、三十代の早い時期に影響を受けて自らのリーダーシップなどを学び鍛えたと言われています。少し話は飛びますが、人生七掛け八掛け説があり、今の自身の年齢の七掛け八掛けが戦前の実年齢であるとの説ですが、確かにそう

思わせられることは多々あります。今の自分と同じ年齢の時、自分の親やその上の世代はもっともっと大人に感じられていた気がします。平均余命が伸びたこともその要因と思われる。健康面など肉体的な部分だけであればよいのですが、精神年齢などもそう言われると、良いのか悪いのか分からなくなり。しかしこは、サミエル・ウルマンの「青春」にあるごとく「青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ」と前向きに捉え、幕末の指導者たちの精神年齢に今いるのだと考えていくことといたしましょう。一斉の言葉に戻れば「少年のときはまさに老成の工夫を著すべし、老成のときはまさに少年の志気を存すべし」と述べています。まだ老成の年ではありませんが、これからも老いて学び、少年の志気を心の様相に存していきたいものです。

令和4年度 各種受賞紹介 (敬称略)

- 文部科学大臣表彰**
 - 地方教育行政功労者 前教育長 鈴木 力雄
 - 学校保健及び学校安全表彰 学校歯科医 佐藤 健一
 - 優秀教職員 会津若松市立謹教小学校 教諭 遠藤奈緒美
 - 優良公民館表彰 喜多方市慶徳公民館
 - 地域文化功労者表彰 三島町文化財保護審議会 会長 角田 伊一
- 各種功労者知事表彰**
 - 保健衛生 喜多方市立第一小学校 学校医 福田 正弘
- 県教育委員会表彰**
 - 地方教育行政功労者 磐梯町教育委員会 委員 宮森 優治
 - へき地教育功労者 会津若松市立第二中学校 校長 小林 稔
 - 社会教育功労施設 会津若松市大戸公民館
 - 文化財保護功労団体 慶徳稲荷神社お田植まつり保存会(喜多方市)
 - 優秀教職員 会津若松市立第二中学校 教諭 渡部 裕也
湯川村立勝常小学校 教諭 佐藤 信野
 - 福島県教職員研究論文 入選 磐梯町立磐梯第二小学校 (代表)校長 近野 典男
入選 福島県立茨原高等学校 教諭 村松ぞえ
- 県学校関係緑化コンクール**
 - 《学校林等活動の部》
 - 知事賞・福島民報社社長賞 会津若松市立川南小学校
 - 教育長賞 会津若松市立湊小学校
 - 《学校環境緑化の部》
 - 知事賞・福島民友新聞社社長賞 会津若松市立大戸小学校
 - 教育長賞 会津若松市立川南小学校
 - 関東森林管理局賞 会津若松市立湊小学校
 - 福島県森林組合連合会会長賞 喜多方市立第一小学校
- 県学校歯科保健優良校表彰**
 - 優秀賞 磐梯町立磐梯第一小学校
喜多方市立松山小学校
喜多方市立上三宮小学校
湯川村立茨川小学校
喜多方市立第一小学校
磐梯町立磐梯中学校
 - 努力賞 磐梯町立磐梯第二小学校
猪苗代町立長瀬小学校
喜多方市立勝常小学校
湯川村立勝常小学校
 - 奨励賞 北塩原村立裏磐梯小学校
湯川村立湯川中学校
- 優秀活動奨励賞** 会津若松市立大戸小学校
- 学校保健表彰(学校保健功労者)**
 - 喜多方市立上三宮小学校 学校医 鳴瀬 淑
 - 会津若松市立湊小学校・松長小学校・湊中学校 学校医 渡邊 一志
公博
 - 会津若松市立城西小学校 学校歯科医 森川 久高
 - 喜多方市立関柴小学校 学校歯科医 大塚 久高
 - 喜多方市立塩川小学校・姥堂小学校・塩川中学校 学校歯科医 齋藤 禮治
- 学校安全ボランティア活動奨励賞** 磐梯町立磐梯第二小学校子ども見守り隊
- 県学校給食会優良団体・功績者表彰**
 - 優良団体 会津若松市河東地区学校給食センター
 - 学校給食功労者 柳津町・三島町学校給食センター 調理員 齋藤 福子
 - 県教育長賞(県産食材活用部門) 喜多方市喜多方学校給食共同調理場
- ふくしまっ子ごはんコンテスト(学校賞)**
 - 会津若松市立神指小学校
 - 北塩原村立裏磐梯小学校
 - 会津若松市立大戸中学校
 - 福島県立会津学風中学校
- 食育推進優秀校表彰**
 - 優秀賞 磐梯町立磐梯第二小学校
喜多方市立山都小学校
 - 優良賞 西会津町立西会津中学校

(令和5年2月17日現在)

「磐梯の教育Ⅵ」策定に向けて



磐梯町教育委員会教育長

高 梨 哲 夫

今年4月に教育長に就任し、早いもので8カ月が過ぎました。磐梯町では現在、令和2年度に策定された「磐梯の教育Ⅴ」を進めておりますが、感染症の拡大に対応できる基盤づくりとデジタル化の進展に伴い、通信ネットワークをさらに活用した教育の技術革新が必要不可欠であることから「磐梯の教育Ⅵ」の策定作業を進めております。

磐梯町のまちづくりの基本理念は「自分たちの子や孫たちが暮らし続けたい魅力あるまちづくり」であり、これを受けて「磐梯の教育Ⅵ」の目標では「子どもたちが磐梯で学び育ったことを誇りにもち、未来をたくましく生き抜くことができる教育を目指します」を掲げました。「磐梯町ならではの」特色ある教育は、次のとおりです。

○ 磐梯で学び育ったことを誇りにもつ教育

- 磐梯の良さ（豊かな文化や歴史、自然）を生かし、

磐梯の「人」「もの」「こと」との交流を通じた教育を行います。

- 「磐梯版ネウボラ*」により、磐梯町で育つ子どもたちを切れ目なく支援します。
 - 保護者や地域と共にある教育を行います。
- 未来をたくましく生き抜ける教育

- 幼小中の教職員が連携し、全ての子どもたちの可能性を引き出す教育を行います。
- 幼小中の「つながり」を意識した、磐梯町ならではの教育を行います。
- 夢の実現に向かって、自分自身を向上させていくための教育を行います。

これらの実現に向けて6つの重点事項を掲げ、磐梯町の良さを生かしSDGsの視点を踏まえた学びを推進する予定であります。

また、磐梯町は英語教育にも力を入れており、令和5年度からニュージーランドとの教育語学交流を進めていく予定であります。

※ネウボラ：子育ての悩みをもつ親や家族が気軽に相談できる場所

我がまちからの情報発信

会津美里町教育委員会

郷土を誇り、郷土とともに

会津美里町は国宝1件（県内3件のうちの1つ）、国指定11件、県指定17件、町指定87件の計116件もの指定文化財を保有する文化財の宝庫であり、歴史の町とも言われています。しかし、現代においては、これまで大切に守られてきた文化財や伝統行事などに触れる機会によって結びついていた地域との関係性が薄れつつあります。町教育委員会は、目標の一つに「文化財の保存・活用と地域文化の継承」をあげており、先人から受け継いだ貴重な文化遺産を次の世代に伝え、子どもたちがふるさとを愛する心や地元への誇りをもって成長してくれることを願っています。



出前授業の様子

町内の小学校では、児童が郷土の偉人である天海大僧正の功績について学べるように、6年生で出前授業を行っています。天海は、会津美里町の出身で、幼いころに龍興寺（国

宝保有）で得度したのち、各地を遍歴して就学を重ねました。会津領主蘆名氏をはじめ、武田信玄、特に徳川家康、秀忠、家光の3代に仕え、絶大な信頼をうけ政治的・宗教的な支えとなっていた人物です。授業後の感想には、「名前は知っていたけれど、それ以外は初めて知りました」「徳川家康を支えていたなんてすごい」など素直な感想が寄せられました。天海は108歳で没後、朝廷から慈眼大師の名を贈られました。町のキャラクター「あいづじげん」はここから名づけられたものです。

地域の伝統行事で有名なのは、中世後期（1500年ごろ）から続く、伊佐須美神社の「御田植祭」です。獅子追いや早乙女による田植えなど、小中学生も元気に参加します。他にも、へびの御年始、大俵引き・高田初市、西勝の彼岸獅子舞、田子薬師堂花祭り、太々神楽、高橋の虫送り、瀬戸市など、地域に根差した伝統行事が子どもたちによって、大切に受け継がれています。

これからも、地域学校協働活動をさらに充実させ、ふるさとを愛し、ふるさとを誇れる子どもたちを育てていきたいと思っております。

家庭教育からの不登校支援 ～家庭教育リーフレット～

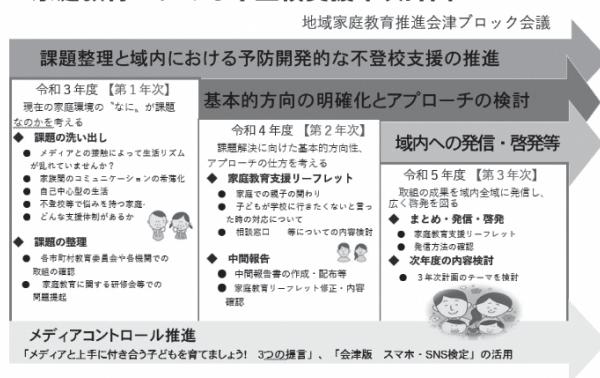
文部科学省が毎年実施している「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」が公表されました。その調査によると福島県内の不登校児童生徒の数が過去10年間で最も多い数となっております。会津地区も同じような状況で、急激に増加している状況です。

そこで、地域家庭教育推進会津ブロック会議では、令和3年度から右下に掲載した年次計画により「家庭教育からの不登校支援」の在り方について検討してきました。特に次の2つの視点を中心に話し合いを行いました。1つ目の視点は、「親子・家族相互の関わり方」についてです。「普段から子どもに対して家族がどう関わるのが大切か」や「子どもが学校へ行きたくないと言った時、親として何をすべきか」について検討しました。2つ目の視点は、「家庭への支援の在り方」についてです。学校、PTA、行政、家庭教育支援チーム、企業として、「どのような支援ができるのか」や「どう連携すればよいか」など、様々な立場の委員の皆様から意見を出していただきました。その意見を集約し、保護者に向けて家庭教育支援リーフレットとして発信していくこととしました。

3年次計画の2年目となる今年は、1年目に協議した

内容を基にリーフレットの原案を作り、さらに良いものにと内容を検討しているところです。リーフレットに掲載できる情報には限りがあるため、さらに詳しい内容や情報は、会津教育事務所のホームページに掲載していきたいと考えております。計画の最終年度となる令和5年度内に完成させ、会津域内の幼、小、中、義務教育学校、高等学校、特別支援学校へ発信していきたいと思っております。そのリーフレットを通して親子関係を見つめ直すきっかけとなれば幸いです。

家庭教育における不登校支援年次計画



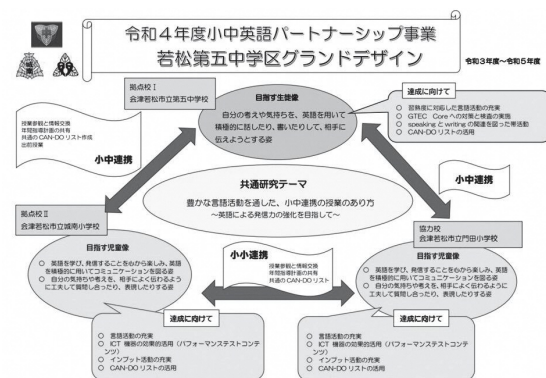
小中英語パートナーシップ事業

本事業は、令和3年度から県内7地区の推進地域において、「豊かな言語活動を通じた小中連携の授業のあり方～英語による発信の強化を目指して～」を共通テーマに、授業実践に取り組んでいます。会津域内では、拠点校として会津若松市立第五中学校と会津若松市立城南小学校、協力校として会津若松市立門田小学校の3校が、推進指定校として実践研究を行っています。事業の2年目となる今年度は、特に小学校第5学年、第6学年及び中学校第2学年の児童生徒を实践対象とし、英語による発信力（小学校ではスピーキング力、中学校ではスピーキング力とライティング力）の強化を図っています。これらの力の伸びを、小学校では、パフォーマンステストコンテンツの利用により、中学校では英語外部試験の受検により、それぞれ追跡調査を行っています。



タブレットを活用したパフォーマンステストコンテンツによる学習

中学校区では、定期的に小・中学校の外国語担当教員が集まり、日頃の互いの取組や実践を情報交換して協議を重ね、外国語教育の系統性や一貫性を意識した中学校区のCAN



若松第五中学校区のグランドデザイン

-DOリスト（英語を使って具体的にどのようなことができるかをリスト化したもの）とグランドデザインを作成しました。

また、それぞれの拠点校で、域内の小・中学校の外国語担当教員を対象に外国語科の授業を公開し、研究協議会を開催しました。今後も中学校区でCAN-DOリストを活用した授業を積極的に実践し、リストの内容をより児童生徒の実態に合わせて改善していくとともに、小・中学校の連続性を意識した効果的な指導や評価のあり方を追究していきます。

各学校の特色ある取組紹介

主体性・表現力を伸ばす「みらい創造科」の取組

喜多方市立上三宮小学校

喜多方市立上三宮小学校は、令和4年度より一定の条件のもとで通学区外から児童の入学・転校を認める小規模特認校として、学び合いを中心とした学習や英語教育、体験活動の充実など、コミュニケーション力の育成をめざした特色ある教育活動に取り組んでいます。

総合的な学習の時間には、外部講師を招いてプログラミング学習を行っており、その時間を本校では「みらい創造科」と呼んでいます。

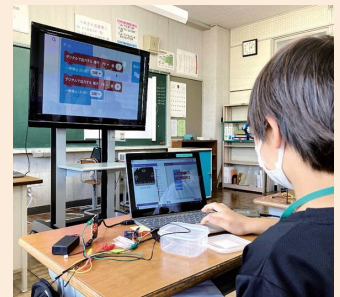
「みらい創造科」は、主にマイクロビットという教育向けマイコンボードを活用し、コンピュータに意図した処理を行うよう指示をする活動を通して、プログラミング的思考を身につけることをねらいとしています。

また、既存のアプリケーションを活用した映像編集に挑戦し、撮影した動画の必要な部分だけをつなぎ合わせたり、テロップを入れたりしながら、試行錯誤を繰り返

して自分だけの動画作品を作る活動にも取り組んでいます。

どちらの活動でも、プレゼンテーション能力の向上のため、各種コンテンツへの参加やオープンスクールでの発表など、表現の機会も大切な学びの場としています。

一人一台配付されているタブレットPCを活用し、それぞれの思いを形にする創造的な学びを、小規模特認校としての強みを生かして、これからもさらに深めていきたいと思っています。



みらい創造科の授業

修学旅行先でふるさとPR

三島町立三島小学校

三島町立三島小学校では、総合的な学習の時間で「三島町のよさを見つめて」をテーマに探究学習を展開しています。

今年度の6年生は、修学旅行先で自分たちの町をPRする活動に取り組みました。それは、三島町の自然や文化、産業などについての探究が進むにつれて、自分たちの町の魅力をもっと多くの人たちに発信したいという子どもたちの思いが膨らんできたからです。そこで、町をPRするパンフレットを制作し、配付する活動へと学習を進展させました。

子どもたちが作ったパンフレットには、三島町の宿や食、景色、さらに町でできる体験などが写真やイラストとともに手書きで紹介され、子どもたちの目線によるおすすめポイントや魅力が伝わるようメッセージなどが添えられました。もちろん写真の使用にあたって関係先から許諾をいただくことも、子どもたちが行いました。

修学旅行では、約50部のパンフレットを宮城県松島町内や青葉城址で配ることができました。初めは、受け取ってもらえるだろうかと不安そうな子どもたちでしたが、勇気を出して話しかけ、街の人や観光客の方たちから「すごいね」「よくできているね」などの言葉をいただくことと自然と笑みがこぼれ、安堵感とともに充実感がうかがえました。

これからも、子どもたちが三島愛を育みながら町の未来や自分たちの未来を自分事として捉え、考えを深めていく学習を続けていきたいと思っています。



手作りパンフレットで三島町をPR
(宮城県松島町にて)

学校と福祉の接続

会津若松市立第一中学校



生徒と読書する主任児童委員

令和3年度の本校の不登校生徒は多数おり、この他に家庭環境に起因した様々な問題が起きていて、これらの改善が課題となっています。昨年、主任児童委員の相談チラシが各家庭に配付された直後に、本校生徒からある相談が寄せられました。担当の主任児童委員の方から学校へ情報の提供があり、一緒に状況を確認しながら助言を行ったり、保護者と面談していただいたりして解決に至りました。

この事例を踏まえ、令和4年6月から月に2日ほど、主任児童委員の方に、本校の図書室に来ていただいています。生徒と会話したり、読書したりした後は、各地区担当の情報を共有し、困っている家庭や生徒がいないか確認します。今年度も既に複数の相談があり、保護者と面談していただきました。主任児童委員の方から相談ポストの設置やスクールカウンセラーとの懇談の時間を設けるなど新たな提案もあり、学校と福祉の接続が進められているところです。



各地区担当からの情報交換